

加工用サツマイモ「高系14号」の目標収量3t/10aを確保し地力低下を招かない施肥

加工用サツマイモにおいて、地力低下を招かないためには、塊根で持ち出す養分量以上の施肥量が必要

背景・目的

加工用サツマイモは、青果用に比べて大きなサイズの塊根や収量増が求められることから、現在は主に栽培期間の延長によって対応している。また、加工用の施肥基準が設定されていないため、青果用品種の施肥基準に準拠しており、地力低下が懸念される。そこで、加工用サツマイモ「高系14号」の養分吸収と施肥との関係を明らかにし、施肥基準確立に資する。

成果の内容

通常、サツマイモ栽培では塊根のみが持ち出され、それに含まれる養分がほ場外へ持ち出される。収量の多い加工用では、青果用の施肥量より持ち出し養分が多く、地力の低下が懸念される。地力維持のためには塊根により持ち出される養分量の補給が重要

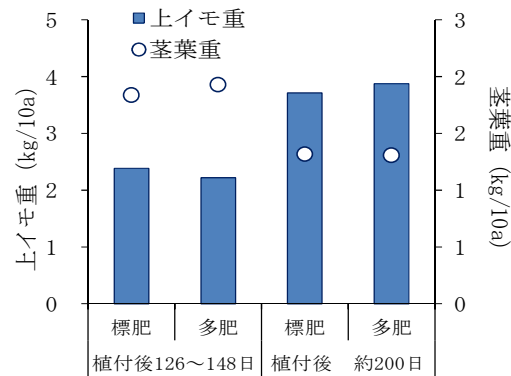


図1 上イモ重および茎葉重の比較

標肥区と多肥区の比較では、126~148日目収穫(青果用)でも約200日(加工用)でも上イモ収量は変わらないが、栽培生育日数の増加に伴い上イモ収量は増加

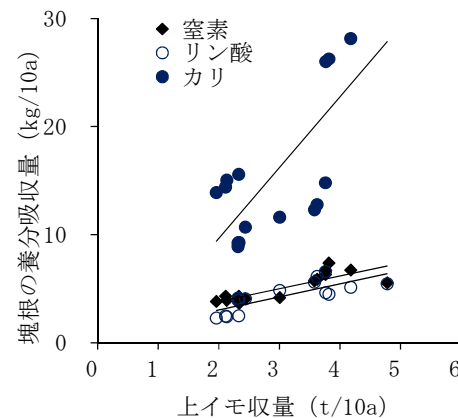
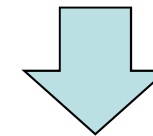


図2 収量と塊根養分吸収量の関係

塊根の養分吸収量は、上イモ収量と比例関係

導入メリット

上イモ収量と塊根養分吸収量の比例関係から、加工用サツマイモの目標収量3t/10aの場合においてほ場から持ち出される塊根の養分吸収量は10a当たり窒素5kg、リン酸4kg、カリ16kg



塊根養分吸収量以上の養分を投入することで、地力低下を招かない

加工用サツマイモ「高系14号」の生産が安定

期待される効果

加工用サツマイモの施肥量が適正化され、地力維持による生産安定が図られる。

普及対象・範囲
県内の加工用サツマイモ生産者